

研究課題：穿孔性虫垂炎の術中腹腔内洗浄量と術後遺残膿瘍の検討

1. 研究の目的

穿孔性虫垂炎（perforated appendicitis: PA）に対して術中に生理食塩水で腹腔内を洗浄することは経験的に多くの外科医が行っています。一方で虫垂炎に対する腹腔鏡下虫垂切除（laparoscopic appendectomy: LA）において術中の生理食塩水での腹腔内洗浄は術後遺残膿瘍の予防には効果が乏しく、汚染腹水の吸引のみで良いという報告も少なくありません。当科ではPAに対して生理食塩水での大量洗浄を行い汚染腹水の除去を図っており、PA術後遺残膿瘍の有無と腹腔内の生理食塩水洗浄量（lavage volume: LV）の関係を検討することで術後遺残膿瘍の予防方法を探求します。

2. 研究の方法

2014年1月から2023年12月までに穿孔性虫垂炎と診断され、腹腔鏡下虫垂切除を受けた患者様が対象となります。診療録から、生まれたときの状態や体重、既往歴や併存疾患、手術時期や手術内容、および術後の経過を含めた合併症についての情報を調べまとめます。

3. 研究期間

2024年11月（倫理委員会で承認を得られた日）から2027年3月31日まで。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

診療録から、生まれたときの状態や体重、既往歴や併存疾患、手術時期や手術内容、および術後の経過と再発を含めた合併症についての情報を調べまとめます。画像（個人情報は一切含まない）が論文内に掲載されることがあります。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター
研究責任者：外科 科長 川嶋 寛
研究分担者：外科 医員 津坂翔一

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2025年3月31日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構
埼玉県立小児医療センター
医事担当（代表 048-601-2200）